

朝夕は、涼しくなったかなと感じるようになりましたが、日中はまだ真夏日になっています。暑さ指数が、運動中止のレベルになる日もあります。もうしばらく、熱中症への備えが必要だと感じています。また、関東地方で、急な集中豪雨により道路の冠水が発生している映像をニュースで目にしました。この近辺でも、同じことが起こらないとも限りません。もしもの時に、無理をせず、正しく対処していくことを、日頃から意識しておきたいものです。

今月29日（金）は、中秋の名月です。昨年につき、今年の“中秋の名月”も満月にあたりますから、晴れていればとても美しいお月様を見ることができます。ぜひ、この機会に、家族で一緒にお月見を楽しんでみてはいかがでしょうか。見ごろは、19時くらいからになります。南東の空に昇っていく満月が、21時ごろ南にきます。満月の高度は、太陽の反対になりますから、夏は低く冬は高くなります。秋は低すぎず高すぎず、月を見上げるのにちょうどよい時季です。更に、残暑が去って湿度が下がり、空気が澄んでくると、夏の間、空気中の湿気のために霞がちだった月が、くっきりと見え始めます。お月見にふさわしい時季とされるのは、このためでしょう。お月見の習わしは、平安時代に中国から伝わったとされます。貴族の間で楽しまれていたものが、江戸時代には庶民の間にも広がり、秋の農作物の収穫祭と結びついていきました。豊かな実りを象徴する満月にお供え物をして、自然の恵みに感謝をする風習ができ上がったのだと思います。古くから伝わる伝統の意味を、子どもたちに伝えていくことも大切です。一緒にお月見団子を作りながら、家族でそんなお話をしてくださるとありがたいです。



満月と言えば、“ウサギの餅つき”が頭に浮かびます。昔の人々は、月の模様をそのように見ていたということですが、同じ模様を見ても、国や地域によっては、とらえ方はまちまちです。世界各地の主な例を紹介しておきます。本当にそんなふうに見えるのか、満月を見つめてみてください。

校長 高木 盛雄



ウサギの餅つき (日本)      大きなカニ (南ヨーロッパ)      女性の横顔 (東ヨーロッパ)      ライオン (アラビア)      水くみの少女 (カナダ)      本を読む女性 (北アメリカ)

## ☆玉島小学校と玉島高校の間の道路、交通規制があるのはご存じですか？

本校の東側の道路は、7時半から9時の間（土日・祝日を除く）、交通規制がかかっています。小学生や中高生の通学路になっているためです。南側（横断陸橋側）からも北側からも、車で進入できませんので、お知りおきください。お子さんを学校へ送り届けるためであっても同様です。交通違反で検挙されないよう、十分にお気を付けください。



## ☆参観日・学級懇談会、ご参加ありがとうございました。

まだまだ残暑が厳しい中をご来校くださり、ありがとうございました。教室が“密”にならないように、ご配慮くださっていたのだと思いますが、たくさんの保護者の方が廊下から参観してくださっていました。共有スペースは、空調が効いていないため、暑かったのではないかと思います。申し訳ありませんでした。子どもたちは、お家の方々に見守っていただき、いつも以上に張り切っていたように見えました。それぞれのお子さんの頑張りをしっかりと認めて、褒めていただくことで、より自信を高めていって欲しいと願っています。よろしくお願いします。

さて、今回は、各学年とも「人権教育」をテーマに授業を公開させていただきました。それぞれの学年の学習内容をもとに、ご家庭でも話題にさせていただくと、更に効果的だと思います。子どもたちの人権意識の高揚にお力添えください。



1年生 道徳

「はしのうえのおおかみ」



2年生 道徳

「色いろいろ」



3年生 学活

「女らしさ 男らしさってな〜に？」



4年生 総合的な学習

「ネットモラル」



5年生 道徳

「ハンセン病について正しく知ろう」



6年生 学活

「文字だけじゃわからない」



A組 自立活動

「こんなときどうする？」

## ☆誰もが大切にされる社会に…

夏休み中に、玉島西中学校区の小中学校4校の教員が集まって、人権教育の合同研修会を行いました。講師は、前乙島小学校長の吉田慎悟先生です。「見方をかえる・ちがう立場で考える」をテーマにした講話でした。「なぜ差別されるのか」その理由を追求するのではなく、「なぜ差別するのか」を考えることが大切というお話がありました。差別される側に焦点を当てると、差別される原因を探すことになります。それは、差別の正当性を探すことになるかもしれませんが、自分は差別される側ではないという“他人事”になってしまう心配があります。差別する側に焦点を当てると、差別する原因が見えてくると、それは差別の不当性に気づき、“自分事”として課題に向き合うことにつながります。今は、更に一歩進めて、「なぜ差別しないのか」を考えることが求められているとも言われました。差別しないことの理由探しは、正しい行動はどうかというロールモデルを見つけることになり、真の差別からの解放につながっていくはずだそうです。

「なぜ差別されるのか」  
 差別される原因探し = 差別の正当化+他人事

「なぜ差別するのか」  
 差別する原因探し = 差別の不当性+自分事

「なぜ差別しないのか」  
 差別しない理由探し = ロールモデルの発見

コロナ禍での我々の経験は、「誰もが大切にされる」ことの重要性を、実感をもってとらえることができたのではないかとのお話もありました。それは、加害者、被害者、傍観者、自分の置かれた立場が瞬時に入れ替わっていったからです。コロナ禍当初、感染者に対して心無い言動を取る人がいました。岡山県でも、その地に住めなくなった方がいたという情報は耳にしています。直接、自分では言わないにしても、新型コロナウイルスへの恐怖心から、「感染者を攻撃する気持ちも分かる…」と感じた人は少なくないのではないのでしょうか。それは、消極的な加害者であったり、傍観者であったりします。それが、いざ、自分が感染してしまうと、いっきに被害者の側に立たされることになりました。今では、コロナに感染したことで差別されるのではという不安は感じなくてよくなったと思います。新型コロナウイルスの正体が分かり、むやみに恐れる対象でなくなったのが大きいでしょう。ということは、正しい知識をもち、正しく行動することが、“誰もが大切にされる社会”を作っていくことですね。コロナ禍当初の不幸な出来事を、自分事としてとらえて検証していくことが大切だと感じました。一人一人が、そこに目を向けると、コロナ禍から学ぶことが、また一つ増えていくのだと思います。